

荏原病院の前身は、明治三十年の伝染病予防法の制定を契機に、明治三十一年七月東京府世田谷村立隔離病舎として、世田谷村大字殿山（現世田谷区赤堤）に開設された。明治三十三年に荏原郡立病院本院を品川町大字品川に設置し、世田谷病舎はその分院となった。

明治四十年には本院の焼失により郡全体を管轄することとなった。

大正十二年の郡制廃止に伴い町村組合病院となった。

昭和七年には東京市の区域拡張により東京市立荏原病院となり、病院の管理運営が東京市に引き継がれ常設の伝染病院となった。

昭和九年、病舎の老朽化も進み、敷地拡張も困難であつたことなどから、現在地に新病院を建設、移転し診療を開始した。

昭和十八年七月都政施行により、現名称の東京都立荏原病院となつた。



- 建物の階数構造
地下2階地上8階鉄骨鉄筋コンクリート造
- 工事完成後の診療開始時期
建物の竣工 平成6年7月末頃
第1次開設 平成6年10月頃
- 患者の取扱規模（全面開設時）
入院病床 500床程度
外来患者 1日750人程度を予定
- 診療内容
脳血管疾患医療・難病医療
リハビリテーション医療・感染症医療
精神科医療・救急医療
等に重点を置いた総合病院

昔の雪谷の絵や写真の展示会があります

日時 平成4年2月20日 ~2月28日

場所 雪谷特別出張所

皆さん見に来てください

昭和五十四年四月鈴木都知事は、荏原病院の改築については、就任するに當つて、マイタウン東京実現に基づく第一次長期計画及び総合実施計画の中で、医療供給施設の整備として、救急病棟の増築及び一般病棟の改築ということが計画されていきました。

その後、改築計画の見直しを行った結果、病棟部分の改築計画では

- ① 新たな医療需要（難病、リハビリ医療等）に必ずしも十分な対応ができないこと
- ② 病院機能が分散するため、効率的運営体制に支障を来すこと
- ③ 高層化が避けられず、近隣

の自然環境が阻害されることが、などから全面改築に變更となりました。

改築後の病院の利用について都側は、紹介制を導入したいというのですが、大田区は他の都立病院と異なり、利用者の大部分が大田区民であることから、地元住民が、身近に利用できるよう弾力的に運用することを申し入れております。



ふれあい雪谷編集局

濱邊	一雄（笹丸自治会） ☎（三七二九）七四九五
三浦	悦次（石川台自治会） ☎（三七二七）二一〇四
松川	五十五（希望ヶ丘自治会） ☎（三七二九）五六三九
洪谷	十四子（雪谷南自治会） ☎（三七二九）三九二一
笹原	稔枝（東中自治会） ☎（三七二〇）二七七二
直井	和子（東雪自治会） ☎（三七二九）六一六〇
野邊	晴子（池の台自治会） ☎（三七二八）四五四七
樽村	昌安（小池自治会） ☎（三七二九）〇二一三
海老沢	幸子（上池上自治会） ☎（三七二八）四一一〇

情報をお待ちしています

編集後記

☆新年を迎え編集委員一同心を新たに、よりよき地域情報紙目ざし努力の覚悟。

☆本号は地域住民に閑心のたかい「新荏原病院の今後」を主要記事として編集。

☆取材は十二月初旬に東京都衛生局の担当者に質問事項を提出、回答をもらうことができた。

☆各号毎に寄せられる褒貶の言葉と取材の協力は大きな励みであり、今後とも編集等についてのご意見、ご批判を乞う次第。

〔発行〕 わがまち大田雪谷地区委員会
〔編集〕 ふれあい雪谷編集委員会
（連絡先） 雪谷特別出張所内
（三七二九）五一・一七
〔発行日〕 平成四年一月 一日



小池小学校 山田 和也 先生の作品

新荏原病院について お伺いします

【質問】

初診や再診の患者さんの、受付から診察、検査、投薬、会計までに至る流れはどのようになりますか

【答え】

コンピューター等の導入により、予約制や待ち時間の短縮等患者サービスの向上に配慮したシステム作りを検討していきます。

【質問】

救急医療は、どのような体制をとりますか

【答え】

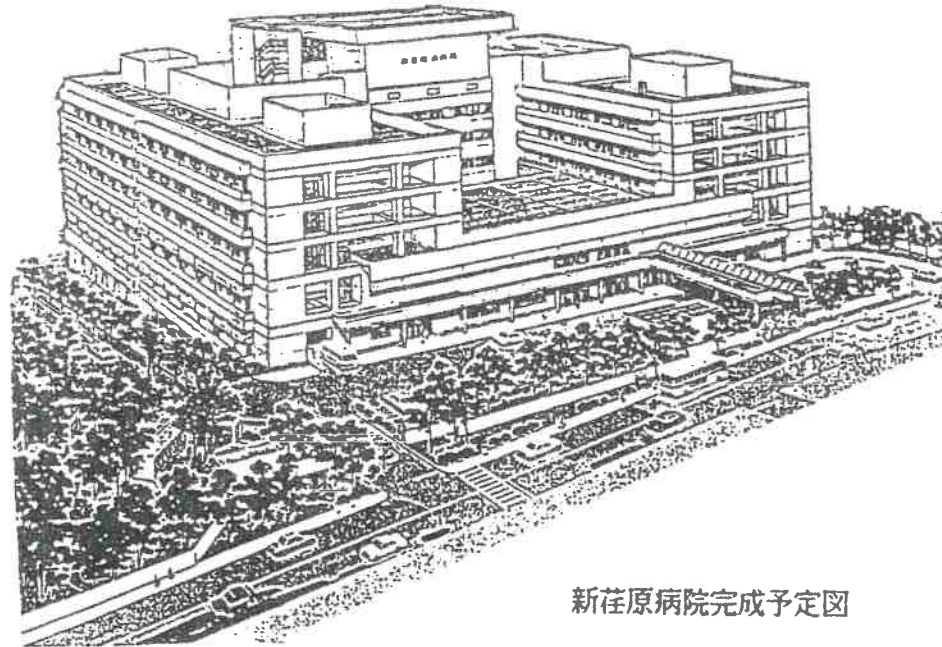
旧荏原病院で実施していた、入院を必要とするような患者の救急医療（二次救急医療）に対応出来る体制を整備します。

【質問】

外来者用の駐車場の駐車能力は何台ですか、また、その駐車場は有料となりますか

【答え】

東京都駐車場条例で決められている附置義務台数を上回り、旧病院の倍以上の“270台”程度（含業務用車両）が駐車可能となります。現在、都立病院の駐車場は無料ですが、無断駐車等の問題もあり、その対策を検討することが求められています。



新荏原病院完成予定図

【質問】

ヘリポートが設置されるそうですが、その目的は何ですか

【答え】

大きな事故や災害等の発生時における傷病者の搬送手段として、ヘリコプターの利用が有効であることから、非常時における救急患者受入れ体制のひとつとしてヘリコプターの緊急離発着場所を設置することにしました。

今回は、雪谷地区で関心の高い荏原病院の改築計画について特集しました。

平成3年12月5日、ふれあい雪谷編集局は、東京都衛生局病院事業部経営企画室荏原病院開設準備担当副参事に、インタビューをしました。

編集委員全員があらかじめ集めた地域の声を整理・分類して質問し、その時の答えを掲載いたします。
皆様のご協力に感謝いたします。

【質問】

今後、原則として、医療機関からの紹介に基づいた診療予約制が導入されると聞いておりますが、その理由を説明してください

【答え】

人口の高齢化が進み、医療需要が増大、多様化する一方で、もっと質の高い医療を提供して欲しいという要求も高まっています。

こうした医療ニーズに的確に対応していくためには、診療所、民間病院、公立病院、大学病院などが、それぞれの機能を生かして役割分担していくことが必要です。

新荏原病院は、都立病院として、一般病院では対応が難しい高度専門医療や行政的に対応が必要な医療を受け持つことになっています。

さらに、総合病院として地域医療にも貢献するという役割も担っています。このような役割を果たすためには、この地域をはじめとする他の医療機関とうまく連携していかなければなりません。その方策のひとつとして紹介予約制が考えられました。

具体的な運営方法については、これから検討していきますが、地域の実情に十分配慮しながら進めていきたいと考えています。

